

2017年1月7日
(於：神戸芸術センター)

SLiT-J ユーザーコミュニティ発足式挨拶

東京大学放射光分野融合国際卓越拠点
拠点長 有馬孝尚

皆様、あけましておめでとうございます。ただいまご紹介いただきました有馬です。昨年12月に発足した東京大学放射光分野融合国際卓越拠点の機構長をしております。

さて、東北放射光施設 SLiT-J のユーザーコミュニティの発足、おめでとうございます。本施設計画を推進している東北大学の関係者の皆様、さきほどご挨拶されました向田吉広（むこうだ よしひろ）副会長をはじめとする、東北経済連合会の関係者の皆様、そして、日本放射光学会、放射光科学コミュニティの皆さんのご尽力に敬意を表したいと思います。

先ほどらいご紹介がごきます通り、3GeV 高輝度光源は、産業界の立場から大きく期待をされている施設でございます。実は、昨今産業界が取り組んでいらっしゃる課題は大変高度なもので、基礎学術の観点においても、大変高度な技術の開発につながるものとなっています。かつて東北大学の総長をされて、ノーベル賞候補者にもなった本多光太郎先生は「産業は学問の道場なり」とおっしゃったそうです。この言葉は、現在の科学と技術の関係にもぴったり当てはまります。様々な素子の大きさが 10 nm 級となった現在、その大きさと動作の速さに見合った「眼」を用いて学術研究を行う必要性が出てきています。サステナブルな社会の実現を目指して行われている触媒や新エネルギーなどに関連する材料開発においても、nm レベルの眼があれば、格段の進歩をもたらすでしょう。生物の理解を進めるうえでも事情は同様です。3GeV 高輝度光源はこのような「眼」の役割を果たすことが期待されています。このような眼は基礎学術においても大変重要です。実際、日本学術会議における大型研究計画のマスタープランで重点大型研究計画に選定されており、多くの研究者、すなわち学術界からも大きな期待がかけられています。

東京大学も、軟 X 線光源の重要性は以前より認識しており、柏キャンパス構想の中心にもなっていました。いくつかの事情により、この構想をあきらめざるを得なくなったあとは、SPring-8 の長直線部に東京大学のアウトステーションを建設しました。それ以降、全国のユーザーを共同利用として受け入れる形で最先端の研究を進めてきています。また、尾嶋名誉教授を中心として分解能 70nm のナノ ESCA を開発して様々な企業との共同研究も進めており、放射光を用いた最先端測定技術と産学協創の相性の良さを実感しているところです。

東北放射光施設計画の話に戻りますと、昨年 11 月 11 日と 12 日に、エンドステーションのコンペが開かれました。これまでにない試みで、オールジャパンで施設計画に取り組もうとする皆様方の熱い思いが伝わってまいりました。東京大学も、オールジャパン体制の中心を担うべき立場であることを十分に認識したうえで、二つのエンドステーションを提案いたしております。

最後になりましたが、本計画を実現させるためには、これから、様々な課題を一つずつ乗り越える必要があると考えられます。東京大学は、本拠点を中心として、できるだけ

応援はさせていただこうと考えております。以上を持ちまして、私からの挨拶とさせていただきます。